事 務 事 業 チ ェ ッ ク シ ー ト

事務事業No　事業名
527　**集落排水整備事業（雑賀崎）**

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政　策	3	住環境の整備
施　策	4	生活排水対策の推進
基本方針	2	公共下水道（汚水）事業計画区域外における生活排水処理施

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	Ｈ２０	～	Ｈ２７
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長（Tel）	下水道経営課	名古曽郁也（073-435-1093）	
関連課	下水道建設課		

［事業基本情報］

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	漁業集落排水事業特別会計		
	款	漁業集落排水事業費		
	項	漁業集落排水事業費		
	目	漁業集落排水施設整備事業費		
	大事業	雑賀崎漁港漁業集落環境整備事業		
	事項	集落排水整備事業（雑賀崎補助・単独）		

「３つの約束・４４の約束」との関連性

	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
３つの約束		○	○	
４４の約束				○

1　事業概要及び実施内容

	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容
事業概要	漁業集落において、し尿や生活雑排水を処理する汚水処理場を建設し、宅内排水設備工事によって集落排水処理施設に接続し、汚水を処理することにより、集落における生活環境の向上と、海や川の水質保全に寄与する事業。	集落排水施設の整備および普及活動。

	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
実施内容	管渠工（開削）L=０ｍ	管渠工（開削）L=１０１．２ｍ	管渠工（開削）L=１６９ｍ		

2　事業コスト

事業費等 千円		平成25年度 当初予算	平成25年度 決算	平成26年度 当初予算	平成26年度 決算	平成27年度 当初予算	平成27年度 決算	平成28年度 計画	平成28年度 決算	平成29年度 計画	平成29年度 決算
事業費		40,000	10,000	34,000	33,894	15,000					
伸び率（%）		-	-	-15.0%		-55.9%		-100.0%		-	
人件費	常勤職員	9,456	8,586	8,586	8,262	8,262					
	非常勤職員										
	小計	9,456	8,586	8,586	8,262	8,262					
国庫支出金											
県支出金		15,000	5,000	14,500	13,870	7,500					
市　債		15,000	5,000	12,000	18,900	0					
そ の 他		10,000	0	7,500	1,124	7,500					
一般財源（税等）											
所要人数	常勤職員	1.25	1.15	1.15	1.11	1.11					
	非常勤職員										
主な予算内訳		最適化構想策定委託料　15,000千円									

3　目標及び実績

	指標名及び達成状況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	集落排水整備延長（年度別）	年度目標値	0.25	0.45	0.55		
		実績値	0	0.1			
	単位 ｋｍ　全体目標値 0.55　全体目標達成度 18.2%	年度別達成度	0.0%	22.2%			
		年度目標値					
		実績値					
	単位　全体目標値　全体目標達成度	年度別達成度					
成果指標	集落排水水洗化率	年度目標値	80	80	80		
		実績値	79.2	79.2			
	単位 %　全体目標値 80　全体目標達成度 99.0%	年度別達成度	99.0%	99.0%			
	集落排水普及率	年度目標値	100	100	100		
		実績値	76.5	76.9			
	単位 %　全体目標値 100　全体目標達成度 76.9%	年度別達成度	76.5%	76.9%			

4　事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70～90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5　今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性					
	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
		コスト投入の方向性			

担当課評価の根拠	流入管渠の整備については概ね完了していることから、今後は中・長期的な老朽化対策や事業の効率化構想を策定することで、集落における生活環境の向上と、海や川の水質保全に安定的に寄与できるように努める必要がある。 事業内容・コスト投入については、今後集落排水事業の適正化に向けた検討を行うことから、長寿命化や機能確保の必要性も含めて現状維持としている。
「見直し」 「改善」案	今後も目標値達成に向けて、普及活動に努めていく。